



◇『願い』

元警視庁交通課長 内山三千代

交通事故による昨年の都内の死亡者は136名。後日、亡くなった方を含めると、その数は更に増え、事故の影響で寝たきりになった人もいます。交通事故はある日突然何の前触れもなく、平穏な日常を壊します。

愛する家族を失った喪失感、重い障害を負いリハビリや介護という、先の見えない不安を抱えながら生きていかなければならない人たちの苦しみや悲しみは計り知れません。

交通事故の殆どが「過失犯」に当たるもので、ほんの少しの注意で防ぎ得ると言えるものです。誰も交通事故を起こそうと思って運転しているはずもなく、交通事故は、私たちの一番身近にあり、一番悲惨な事態を招き、一瞬で平穏な日常を破壊する犯罪です。

私は、長らく交通事故の捜査をする仕事に携わってきました。事故がどうして起きたのか、事故原因を解明し、加害者に法律に従って処罰を受けさせる仕事です。

交通事故で人を死傷させた加害者は、刑事責任・民事責任・行政責任の3つの責任が課せられます。車のハンドルを握ることの責任は、それ程重いと言うことです。

背負いベルトがちぎれたランドセル。倒れた自転車の前カゴに入ったお惣菜。お弁当箱の中からこぼれたご飯など……。交通事故の現場に残されたこれらを見るたびに、子供を、母親を、父親を、そして大切な人を、いつものように帰って来ることを待っている人がいるであろうことを思わずにはいられません。私は、これまでに日常が失われた瞬間に何度も立ち会ってきました。なんと惨いことか。「会いたい」と願っても、その願いは叶うことがないのですから。一方、予期もせず加害者家族となり、加害者家族と言うだけで世間から激しい誹謗中傷を受け、過酷な状況に陥る人たちもいます。

加害者の家族も被害者です。

交通事故は、誰もが起こす可能性があるが故に、誰もが一瞬にして不幸になるのです。

今年に入り、昨年に比較して都内の死亡事故が増えている現実。いつも通っている道だから大丈夫、自分に限って事故は起こさないと油断や慢心が、事故を誘発させている事実があります。家族を含め、大切な人たちを不幸にしないために『交通事故は起こさない。起こさせない』取り組みが如何に重要であるかを痛感します。

今年も桜の咲く季節になりました。東池袋で母娘の命が奪われた事故から5年、事故現場の交差点には、今日も人々や車が行き交い、いつもの日常がそこにはあります。

桜の花びらが舞う現場の傍に建つ慰霊碑には、【願い】が刻まれています。『交通事故で平穏な日常が奪われる人がゼロになりますように』と。平穏な日常を、いつもの日常を誰もが失わない社会であって欲しいと強く願います。どうぞ、今日も悲惨な交通事故がないようにと……。

結びに、今回執筆の機会をいただきましたことに深く感謝申し上げます。心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

《編集後記》

日頃は、ロジスティクス研究会の広報誌「ひびき」をご愛読頂き、誠にありがとうございます。

東京での桜の開花は例年より遅く、各地の桜の名所も「桜祭り」の開催をしながらも、蕾を見ながらの花見となったようですね(笑)

しかしながら、私たちの幼少のころは、新年度を迎えて入学式の時期に、校庭の桜が満開になるのが当たり前のような記憶があります。それを思うと、今年の開花は昔に戻ったというか、平常になったのだと思いました。「ピカピカの一年生」も綺麗な桜に迎えられて、清々しいスタートを切れたのではないのでしょうか。

さて、我々業界にとっての最大の課題であった「2024年問題」と言われている「働き方改革法案によりドライバーの労働時間に上限が課せられる事で生じる問題」に直面しました。果たして、この問題は本当に解消され、各社が完璧に実行されているのでしょうか？決まった法令なので、遵守をすることは当たり前ですが、そのひずみは計り知れないマイナス要因を生んでしまっているのではないかと思います。生鮮食料品で見られる「産地直送」なんて事も、場合によるとなくなるのではないかと思います。

最近、オープン直後のスーパーの売り場で、商品が陳列されていない棚を見かけます。

「2024年問題」で発生したひずみが足元まで迫ってきている証拠ですね。労働時間の少なくなったドライバー達の減額した給与の補填を、我々経営者はしなくてはなりません。運賃の値上げ交渉等、いろいろな面でのマイナス要因を乗り越えて、ドライバー達にとっての働きやすい職場を作る為に、新たな経営努力をしていかなければなりませんね。

今回ご執筆頂いた、元警視庁交通課長の内山様は、「東池袋自動車暴走死傷事故」の発生から裁判の結審まで携わられた方です。今までロジスティクス研究会では、会社経営、物流研究等を中心に議論し活動をしてまいりました。今回は、我々運送会社の経営者が、一番力を入れなくてはならない「事故防止」を訴える記事となりました。ひとたび加害者として死亡事故を起こすと、会社の経営も揺らぐ事になります。また、逆に可愛いドライバーが被害者になった時の悲しみは計り知れない事です。私自身も、帰宅途中の事故で、信頼していた社員を亡くしました。霊安室で変わり果てた、弊社の作業服を着ていた社員と対面した時の悲しみは、今も忘れません。

私の広報委員長としての最後の「ひびき」の編集で、我々業界においての最大の使命である「事故防止」をお伝え出来た事はこの上ない喜びであり、編集人として最高の終幕だと思っています。来月号は退任するロジ研の役員の皆様のご挨拶を掲載させて頂きます。

編集人 中村 克敏

◇スケジュール 《ロジ研行事予定》

- 5/23 16:00～ 正副本部長・幹事合同会議(東ト総合会館)
- 6/5 16:00～ 通常総会(")
- 6/5 17:30～ 懇親会(")